

令和元年産(2019年産)農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔令和元年(2019年)12月25日
十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
北海道十勝総合振興局〕

1 考え方

本集計は、令和元年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合の取扱見込額について、農協ごとに試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、直接支払交付金、生乳生産者補給金を含むが、産地交付金、農業共済金支払額は含まない。

2 令和元年の概要

農協取扱高は、耕種部門、畜産部門双方が増収したことにより、
3,549億円（前年比107%）

◇耕種部門取扱高◇1,401億円（対前年比110%〔構成比39.5%〕）

本年は、融雪が早く、春作業が順調に進んだ。その後、例年にない周期的な気象変動により、豆類の生育にやや厳しい年になったものの、平均気温、日照時間も平年を上回ったことから、農作物全体においては概ね良好に推移し、収量を確保。

- 小麦は、好天の影響により収量が前年に比べ上回るとともに、入札価格も上昇していることから、前年比32%増。
- 豆類は、7月の低温・日照不足等により生育に影響を与えたものの、総じて収量が前年に比べ大きく上回るとともに、価格が堅調に推移していることから、前年比27%増。
- ばれいしょは、作付面積が前年より減少したものの、比較的順調に生育し収量が前年より増加したことから、前年比5%増。
- てんさいは、順調に根部肥大が進み、前年を上回る単収を確保したが、作付面積及び糖度が前年を下回ったことから、前年比6%減。
- 野菜は、概ね順調に生育し、多くの品目で前年を上回る作柄となったものの、市況価格が低迷したことから、前年比2%減。

◇畜産部門取扱高◇2,148億円（対前年比105%〔構成比60.5%〕）

- 酪農は、1年を通して前年を上回る生乳生産を維持するとともに、乳価の上昇などから、前年比3%増。
- 肉用牛は、枝肉価格や素牛取引価格が堅調に推移したことから、前年比7%増。

3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

区分	令和元年(概算値)		平成30年(概算値)		対前年比		
	取扱高	構成比	取扱高	構成比	増減額	前年比	
耕種	麦類	372	10.5	281	8.5	91	132
	雑穀・豆類	236	6.6	186	5.6	50	127
	ばれいしょ	272	7.7	259	7.8	13	105
	てんさい	288	8.1	306	9.2	△18	94
	野菜	227	6.4	232	7.0	△5	98
	その他	6	0.2	5	0.1	1	120
小計	1,401	39.5	1,269	38.2	132	110	
畜産	酪農	1,327	37.4	1,285	38.7	42	103
	生乳	1,143	32.2	1,093	32.9	50	105
	肉用牛	790	22.3	736	22.2	54	107
	豚・鶏	15	0.4	15	0.4	0	100
	その他	16	0.4	15	0.5	1	107
	小計	2,148	60.5	2,051	61.8	97	105
総合計	3,549	100.0	3,320	100.0	229	107	

※ 取扱高は税抜き。